

2024年9月12日（火）

## テーマ 自然の中で五感をたっぷり感じる

けやき組 28名

自然体験の専門家と過ごす中で、身近な自然の中に新たな視点・発見があることを知り、共に過ごす仲間と関わり合いながら洞察を深めます。自然に対しての興味や関心がさらに深まるような活動として、9月は川へいき、水辺の生き物や現象に触れて川の冷たさや流れを体感しました。川でのルールを守りつつ、川でしかできない遊びを体験したけやき組です。

### 活動のために準備した素材や道具

プールバッグ、水筒、ラッシュガード、ウォーターシューズ、大きめのタオル、カップ、着替え一式、ビニール袋  
カメラ、ipad、テント、携帯電話、虫除け、虫網、エビ網  
ビニールシート、虫かご、おやつ、お昼ご飯、麦茶

### 活動の内容

9:15 園出発（バスの中でルール確認）

9:45 中津川（神奈川県相模原市）到着

9:55 ライフジャケットに着替える

準備体操

支流体験 全員が川支流を歩いて移動、水でぶかぶか浮いてみる  
歩いて足で水の抵抗を感じる

支流で体が浮いて流れる楽しさを味わう

上陸し、河原の石、虫探し、エビ網での小魚掬いなど。

11:45 昼食

13:25 帰園



「足をまっすぐにすると浮くよ」「ぶかぶかする」  
「こわくないよ」「もっててね」

浅い水辺には水と光を受けて、綺麗に輝く石がたくさん。面白い形、古びたものなど心が惹かれるものを手に取ってじっくりと眺めたり、水に投げて飛沫を楽しむ子もいました。



### 保育者の気づき

最初は川に入ることに躊躇っていた子も仲間と一緒にすることで徐々に楽しんでいく姿もあり、集団で体験できる良さを感じました。川の流れの状況により、本流にはいかず支流のみにりましたが、何度も同じ場所で繰り返すことで、バランスをとって浮く感覚をつかむ姿もありました。少し奥まった草が茂る場所も、自然体験の先生、友達と一緒に探検できる面白さを感じることができました。

大胆に仰向けになって流れに自然に身を任せて楽しむ子もいれば、体の力を抜いて浮くことが難しい子も。  
保育者が「大丈夫だよ」と声をかけながら、少し背中を支えてあげると  
周りの友だちの様子を見て、少しずつ浮くことができる子もいました。下流まで行って、走って上流に戻り、繰り返し流れを楽しんでいました。



石の裏にも生き物を見つけました。川から上がると、草むらにもトンボがたくさん飛んでいました。走り回ってトンボやバッタを見つける経験をすることができました。



2025年1月28日（水）

## テーマ 里山を冒険しよう

けやき組 28名

自然体験の専門家と過ごす中で、身近な自然の中に新たな視点・発見があることを知り、共に過ごす仲間と関わり合いながら洞察を深めます。今回はバスに乗って、里山に出かけました。山でのルールを学びつつ、冬の里山でしかできない遊びを体験します。

### 活動のために準備した素材や道具

水筒、着替え、救急セット、タオル、カメラ、携帯電話、ipad（記録用）

### 活動の内容

8:45 園出発（バスの中でルール確認）

9:00 里山入口到着 徒歩で移動

9:05 準備運動 be natureの森さん、鈴木さんにご挨拶。  
山での約束を聞く。見えないところに行かない。戻って来てと言ったら集まる、など。

9:15 田んぼ、池に張っている氷を見つける。落下に注意。

9:30 冒険開始、山道を上り広場（小野路城址）へ。自由遊び。

10:25 広場で遊ぶチームと冒険チームに分かれる。

11:10 広場に全員集合、山を走って下る。

11:30 バス乗車、帰園

### 広場チーム

広場では斜面を思い切り駆け下りたり、落ち葉をたくさん集めて友だちとかけあったり。初めて来る場所でしたが、みんなのびのびと過ごしていました。

体の動きや遊びがどんどんダイナミックになり、木登りに挑戦したり、反対側まで「いくよー！」とダッシュしてみたり。自然に溶け込みながらその楽しさがじんわりと広がっていました。

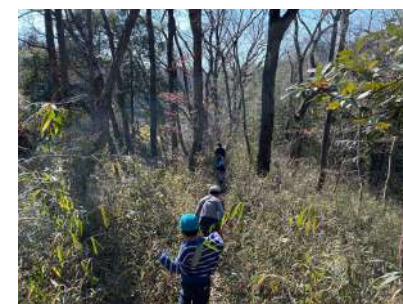
### 冒険チーム

冒険に行く前にまず神社にお参り。無事に山の探険ができますようにと祈って冒険が始まりました。分かれ道が来たらどっちに行くか、相談をする約束のもと話し合い、子どもたちで「あっちに行きたい人はここに並んで！」と決めていきます。木が生い茂っていて先が見えない道も「行ってみよう」とハラハラする気持ちを楽しんでいるようでした。道を進んでいくと行き止まり・・・ということも。そんな展開も冒険の醍醐味。「疲れたけど楽しかったー！」と清々しい声が聞こえてきました。

### 保育者の気づき

初めての里山での自然体験。畦道が少しぬかるんでいたり、細い木の棒を渡らなければいけなかったり。「渡れない」「怖い」と呟く子もいましたが、「がんばれ！」という友だちの声に一步步踏み出して進んでいました。探険に行きたい人と、広場でじっくり遊びたい人に分かれ、また合流した時には自分たちが経験したことを伝え合う姿がありました。自然の中で、自然物を使って様々な遊びを子どもたち自身が生み出していきました。

とうきょうすくわくプログラム





2025年2月18日（火）

## テーマ 火おこし、焚き火に挑戦

けやき組 28名

自然体験の専門家と過ごす中で、身近な自然の中に新たな視点・発見があることを知り、共に過ごす仲間と関わり合いながら洞察を深めます。最終回は裏山で焚き火の元となる枝を探し、自分たちで火おこしに挑戦。危険性についても考えながら、火の魅力を感じていきます。火おこしの仕組みについて自分なりの考えを創意工夫して実践し、周りの友だちと気づきや発見を伝え合うことを楽しみます。

### 活動のために準備した素材や道具

マシュマロ、ビニール袋（枝集め用）、救急セット、綿素材の軍手、新聞紙、バケツ4、ブロック、網、雑巾、シャベル、カメラ、携帯電話、ipad（記録用）

### 活動の内容

9:15 園庭集合 be natureの森さん、鈴木さんにご挨拶。準備運動  
火おこしの内容説明、注意事項を聞く。  
リーダー、サブリーダーを決める。  
月見台へ移動。

9:35 枝ひろい（枝3種、火つけの杉葉、マシュマロを刺す長めの笹）10:05  
園庭最終号 グループごとに集まる。  
お米を研ぐ班、枝の分類、  
及び道具班に分かれる。

10:20 焚き火のデモンストレーション



10:35 焚き火 火が安定したグループからマシュマロの焼き方をレクチャー。焼く。

11:20 消火レクチャー。備品の回収。

11:35 be natureの方へ挨拶。人数を確認し終了。



### 保育者の気づき

小人数のグループに分かれ、役割分担をしました。自分のやりたい思いを通したい子も、話し合いをしていく中で徐々に周りの人の思いを考え、普段リーダーにならない子がリーダーになるなど、新たな役割を子どもたち同士で納得して決めていきました。森に入ってよく燃える枝を探したり、お米を研ぐ経験をしたりと、普段の保育では経験できないことができました。火の危険性についてはしっかりと伝え、子どもたち自身声をかけあって「危ないよ」「熱いよ」と気を付ける姿がありました。ウインナーやマシュマロを焼いて、その美味しさにも喜び、「どうぞ」と後から来た大人に渡してくれたり自分たちの活動に喜びを感じながら過ごすことができました。